

## リスク管理について

金融技術の発展、規制緩和の進展等により、金融サービスや業務が一段と多様化・高度化するなかで、銀行が直面するリスクは複雑化・多様化しています。

当行では、リスク管理態勢の確立を経営の最重要課題のひとつに位置づけ、各種リスクの特性に応じて適切にリスク管理を行うことで、経営の健全性の維持・向上と安定的な収益の確保に努め、お取引先や株主の皆さまからの信頼にお応えしてまいります。

### 1 信用リスク管理

当行では、営業推進部門と貸出審査部門とを明確に分離し、個別案件毎に厳正な基準に基づき審査・管理を行っております。

また、階層別研修の実施や職場内教育を通じて、融資の基本原則の周知や実践的な与信管理の徹底を行うなど行員の研修体制も充実させております。

さらに、信用格付・自己査定を通じて、「信用リスクの計量化」に取り組む等の信用リスク管理面の充実・強化に努めるとともに、適正なる償却、引当を実施しております。一方、経営改善計画の策定等、経営改善を要するお客さまにつきましては、本部担当部署を中心に営業店と協力し、事業再生に向けた相談、助言を行っております。

#### ●信用リスク

貸出先の経営悪化等により、貸出金の元本や利息等の回収が困難となるリスクのことをいいます。

### 2 市場関連リスク管理

銀行の運用・調達手段の多様化に伴い、金利変動や株価が銀行の収益に及ぼす影響はますます大きくなってきております。安定した収益を確保し、信頼される銀行づくりを進めていくためには、資産・負債を総合的に管理していかなければなりません。

当行では、このような直接収益に係わる金利リスクをはじめとする市場関連リスクを適切にコントロールし、安定的な収益を確保することを目的に「ALM委員会」を設置し、資産・負債の総合管理態勢を整備するとともに、リスク管理態勢の高度化を図っております。「ALM委員会」は、毎月開催し、経済や金融環境の予測を行っております。貸出金や有価証券などの資産や預金などの負債の量や利回り・期間などを分析し、各種リスクへの適切な対応策を協議し、最適な資産・負債構造の構築に努めております。

一方、こうした市場関連リスクの管理を明確化するため、「市場関連リスク管理規程」を定め、市場関連リスクの管理にかかる組織・権限・管理方法等を明確化し、これにもとづいた厳正な業務運営・管理を行っております。

銀行の資産・負債をどのように管理するかは経営の根幹であります。今後とも、管理体制の整備やシステム面の充実を図るとともに人材の育成にも努め、より適切な業務運営を行ってまいります。

#### ●市場関連 リスク

市場のリスクファクターの変動によって被るリスクであり、金利の変動に伴って生じる金利リスク、有価証券等の価格変動に伴って生じる価格変動リスク、外国為替相場が変動することによって生じる為替リスクがあります。

#### ●ALM [Asset Liability Management]

金利予測を前提として、リスクと収益を一元的に管理し、銀行にとって最適な資産・負債の構成を追求する手法です。

### 3 流動性リスク管理

当行は、流動性リスクの把握、管理を目的として「流動性リスク管理規程」を制定しております。その中で、リスク管理手法、資金繰り逼迫度に応じた対応策等を定めております。

日々のリスク管理では、資金の運用残高・調達残高の予想・検証をきめ細かく行って資金ポジションの適切な管理を行うとともに、市場からの調達可能額の把握にも万全を期しております。

**●流動性リスク** 銀行に対する信用状態により必要資金の確保が困難になったり、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされる資金繰りリスクと、市場の混乱等で取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる市場流動性リスクがあります。

## 4 事務リスク管理

銀行の取扱商品の多様化ならびに取引量の増加に伴って、事務面での事故が発生する危険性も増大していることから、事務リスクに対する内部管理態勢の充実・強化を図るため、規程・マニュアル類の整備、充実のほか、営業店の事務水準向上を主眼として、事務部内の臨店指導チームが、営業店の事務規程類の遵守及び自店検査の実施状況の検証と指導に取り組んでおります。

また、内部牽制組織としての監査部が、すべての営業店及び本部各部を被監査部署としてリスクの種類・程度に応じた実効性のある内部監査を実施しております。

なお、連結決算の実施に伴って、連結対象子会社の監査も実施しております。

**●事務リスク** 当行役職員が業務運営において正確な事務を怠る、あるいは不正・不詳事を起こすことにより当行が損害を被るリスクをいいます。

## 5 システムリスク管理

システムリスクの対応につきましては、銀行のオンラインが停止した場合には社会的影響が大きいことから、種々の対策を講じております。

ハード面からの安全対策としては、高度の防犯、防災設備を備え、阪神大震災規模の地震にも耐え

うるコンピュータセンターを建設するなど、設備の一層の充実を図っております。

さらに、もしもの場合のオンライン障害に備えて、待機系のコンピュータを常時稼働させており、本番系のコンピュータが停止した場合は、数分内に自動的に待機系のコンピュータが作動し、オンラインを継続するシステムを構築しております。また、コンピュータセンターと本部、営業店及び店外出張所を結ぶ通信回線や預金・貸出金等の情報を蓄積している元帳データ等も全て二重化しています。

そのほか、システム開発面やシステム運用面でのシステムリスク対策につきましても、種々のシステム管理規程類の整備やその遵守状況について監査部によるシステム監査を実施するなど、リスク管理の一層の強化を図っております。

**●システムリスク** コンピュータシステムのダウン・誤作動等のシステム不備やシステムの不正使用により損失が発生するリスクをいいます。

## 6 コンティンジェンシープランについて

大規模災害、システム障害等が発生した場合の対策として、平成14年12月にコンティンジェンシープラン（危機管理計画）を策定いたしました。

コンティンジェンシープランには、災害時などの緊急時におけるお客さま・行員等の安全確保、銀行資産の保全と散逸防止、営業体制の早期確立を図るため、災害対策マニュアル、防犯対策マニュアル、システム障害対応マニュアル等を定めております。また、万一当行が風評被害にさらされた場合の対応マニュアルも定めております。

なお、緊急事態発生時に、本部ならびに営業店がスムーズに対応することができるよう障害訓練を実施しています。